

不登校児童生徒への対応について

1 はじめに

現行の学習指導要領において、「日頃から学級経営の充実を図り、教師と児童生徒との信頼関係及び児童生徒相互のよりよい人間関係を育てるとともに児童生徒理解を深め、生徒指導の充実を図ること」と示されている。学校は、児童生徒が楽しく過ごせる場でなければならず、児童生徒が自分の個性に気付き、長所を伸ばし、自己肯定感をもちながら日々の学校生活を送ることが重要である。

さらには、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本方針」（平成 29 年 3 月 31 日）において、「不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものとして捉え、不登校というだけで問題行動であると受け取られないよう配慮し、児童生徒の最善の利益を最優先に支援を行うことが重要である。不登校児童生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の不登校児童生徒の状況に応じた必要な支援が行われることが求められるが、支援に際しては、登校という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。」と示されている。

このように、誰もが行きたくなる学校・学級づくりを進めるとともに、児童生徒の一人ひとりの内面に目を向けながら、学校組織として、状況に応じた適切な支援を行っていくことが必要である。

2 本市不登校児童生徒への支援体制について

(1) 未然防止の取組

① 楽しい学校・学級づくり

丸亀市教育委員会では、学校教育方針の柱に「楽しい学校・学級づくり」を掲げ、市内小・中学校において創意工夫し実践を積み重ねている。各校が実践の成果をあげるためには、児童生徒が学校生活のどのようなところに楽しさを感じているか、また、楽しくないと感じている理由は何なのかを探り、教育活動の改善を図る必要があることから、平成 18 年度から「楽しい学校・学級づくり」アンケートを行っている。(資料 1)

各校において、これまでの取組とアンケート結果の関係性や推移について分析したり、実態把握から児童生徒理解を深めたりと、魅力ある学校づくりを進め、不登校の未然防止に努めている。

② 各学校での未然防止の取組

- ・居場所のある学級づくりとして、レーダーチャートを基に学級の課題について主体的に考える話し合い活動
- ・認め合う集団作りとして、計画的な異学年交流
- ・学校行事と関連付けた「道徳の日」の効果的な運用
- ・ボランティア活動の充実

(2) 早期発見・早期対応の取組

① 各学校での早期発見・早期対応の取組

- ・チームで登校状況確認
- ・アンケートの実施
- ・悩み相談カードの実施
- ・教育相談の実施
- ・定期的な生徒指導委員会の開催
- ・校内で別室を設置

② 不登校予測資料等の活用

R4 年度より全小・中学校が「不登校予測資料」（資料 2）を作成し、不登校が予測される児童生徒を早期発見する。それに基づき、校内ケース会を開催し、一人ひとりについてアセスメント及び早期対応を実施する。市教委担当も定期的に各校の「不登校予測資料」を確認し、必要に応じて個別聞き取り、対応への助言、ケース会への参加を行っている。

また、毎月、当月 7 日以上欠席児童生徒連絡票を作成し、市教委に提出することで、これまでの学校の取組や今後の対応を学校、市教委で情報共有し、状況の把握、組織的、計画的な支援を行っている。

③ 発達障害等への対応

自閉傾向や ADHD 傾向がある児童生徒は、人間関係を築くことが苦手な場合があり、集団生活をする学校が居づらくて嫌な思いをする場所になってしまうことがある。発達障害の診断の有無に関わらず、まずは関係する教員が、個々の児童生徒の特性に気付き、保護者との連携を図っている。そのために、丸亀市独自の取組である「丸亀市巡回カウンセリング」を効果的に活用している。「丸亀市巡回カウンセリング」は、医師、大学教授、臨床心理士等の相談員が市内小・中学校に巡回し、児童生徒への関わり方を教員へ助言したり、対象児童生徒の保護者の相談を行ったりしているものである。また、場合によっては、丸亀市相談窓口「NPO 法人グランマール」の個別相談にもつないでいる。

④ 丸亀市教育支援センター「友遊」

丸亀市教育支援センター「友遊」は、不登校児童生徒に対して、個別の相談・指導、小集団での活動を行いながら、主体性や社会性を培い、学校生活への適応を図るとともに、児童生徒の自立を援助している。

児童生徒、保護者、在籍校に対する相談も行っており、例えば、「親の会」でのグループカウンセリングで、専任のスクールカウンセラー 2 名が、心理の専門的立場から助言している。

⑤ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携

スクールカウンセラーは、県のスクールカウンセラー配置事業も活用しながら、全市内小・中学校に派遣し、児童生徒・保護者・教職員からの相談に対応している。（9 名のスクールカウンセラーを丸亀市内 23 校の小・中学校に配置）

県のスクールカウンセラー配置事業は、児童生徒の臨床心理に関する専門家を設置し、問題行動・不登校等の早期発見・早期対応や未然防止を行うとともに、教育相談の充実を図る事業で、費用の 50%を県費と市費で折半し、特別支援学級を含む 12 学級以上の小学校が対象となっている。（R3 年度は小学校 10 校に 7 名のスクールカウンセラーを配置。R4 年度は小学校 12 校に 8 名のスクールカウンセラーを配置）

スクールソーシャルワーカーについては、H28 以降学校教育サポート室専門家 1 名と、中学校 2 名を拠点校とした学校配置 2 名の合計 3 名体制であったが、R4 より月 3 日勤務のスクールソーシャルワーカー 1 名増員している。不登校児童生徒への家庭訪問を定期的に行い、置かれている家庭環境や社会環境等の側面から状況を把握し、本人・保護者・学校にアドバイスや支援を行っている。

このように、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーともに、チーム学校の一員として欠かせない存在である。増員の必要性を感じているが、専門的な知識・技術を有するとともに、活動経験の実績等が必要なことから、適切な人材の確保が難しい。

3 支援に対する成果と課題

- 不登校児童生徒への対応記録作成等による早期発見・早期対応、情報共有
- 小学校と中学校の連絡会等による縦の連携
- OSSW1 名増員による相談活動の充実
- 校内相談体制の整備
- 学校と教育支援センター等の関係機関との連携強化に向けた市教委の取組
- 教職員の発達障害等への理解を深める研修会の開催

資料1

学校生活アンケート（小学校1年～3年）回答用紙

- (1) あなたの^{がくねん}学年をおしえてください。
 1 1^{ねん}年 2 2^{ねん}年 3 3^{ねん}年

<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
-------------------------	-------------------------	-------------------------

- (2) あなたが^{おとこ}男の子か^{おんな}女の子かおしえてください。
 1 男 2 女

<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2
-------------------------	-------------------------

- (3) ^{がっこう}学校はたのしいですか。
 1 とてもたのしい 2 たのしい
 3 あまりたのしくない 4 たのしくない

<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- (4) (3)で1か2をえらんだ^{ひと}人にききます。
^{がっこう}学校がたのしい^{わけ}を、おしえてください。
 (いくつえらんでもかまいません)

<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

- 1 ともだちがいるから 2 じゅぎょうがたのしいから 3 ^{せんせい}先生がすきだから
 4 きゅうしよくがあるから 5 すきなぎょうじがあるから
 6 そのた

--

- (5) (3)で3か4をえらんだ^{ひと}人にききます。
^{がっこう}学校がたのしくない^{わけ}をおしえてください。

<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

- (いくつえらんでもかまいません)
 1 ともだちがすくないから 2 じゅぎょうがたのしくないから
 3 ^{せんせい}先生とはなしができないから 4 きゅうしよくがたべられないから
 5 すきなぎょうじがあまりないから
 6 そのた

--

- (6) じゅぎょうは、たのしいですか。
 1 とてもたのしい 2 たのしい
 3 あまりたのしくない 4 たのしくない

<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- (7) (6)で1か2をえらんだ^{ひと}人にききます。
 じゅぎょうがたのしい^{わけ}を、おしえてください。
 (いくつえらんでもかまいません)

<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

- 1 いろいろなことがわかるから 2 できなかったことができるようになるから
 3 わかりやすくおしえてくれるから 4 ともだちとはなしあえるから
 5 じぶんのいけんをいえるから
 6 そのた

--

(8) (6)で3か4をえらんだ人にききます。

<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

じゅぎょうがたのしくないわけを、おしえてください。

(いくつえらんでもかまいません)

- 1 あまりわからないから 2 あまりできるようにならないから
3 ともだちとのほなしあい^{ひび}があまりないから 4 じぶんのいけんをいえないから
5 その他

--

(9) じゅぎょうは、わかりますか。

<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- 1 よくわかる 2 だいたいわかる
3 あまりわからない 4 わからない

(10) こまったときに、だれにそうだんしますか。

<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

(1～4は、いくつえらんでもかまいません)

- 1 おや 2 きょうだい 3 せんせい 4 ともだち 5 いない 6 わからない

(11) あなたは、かかりやとうぼんのしごとを、
きちんとしていますか。

<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- 1 きちんとしている 2 している 3 あまりしていない 4 していない

(12) あなたは、ともだちやせんせいに、「ありがとう」と
いわれたことはありますか。

<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 ない

(13) じぶんには、よいところがあるとおもいますか。

<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- 1 ある 2 どちらかといえばある 3 あまりない 4 ない

(14) すんでいるちいきのれきしやしぜんについて
きょうみがありますか。

<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

- 1 ある 2 どちらかといえばある 3 あまりない 4 ない

ありがとうございました。

資料2

【 不登校予測の判定基準 】																								
A 前年度欠席日数30日以上で、4月途中で欠席日数が3日以上となった											B 本年度、10日以上欠席した													
C 本年度、月3日以上欠席2回以上、または月5日以上欠席1回以上となった											D 前年度の欠席日数が10日以上ある													
【 不登校の要因 】																								
1 対人関係			2 学力不振			3 家庭教育力			4 発達障害等			5 兄姉不登校			6 病気			7 その他			8 学校の配慮			
番号	学年	組	番号	性別	氏名	前年度 欠席日数	本年度の欠席日数												計	昨年度 別室	本年度 別室	不登校 の要因	判定基準	ケース会
							4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
1	○	○	○	○	○○ ○○	102	3	2	2	2								9	×	×	1、2	A、B、C、D	拡大	
2	○	○	○	○	○○ ○○	86	2	3	2	3								10	×	○	1、2	B、C、D	個別	
3	○	○	○	○	○○ ○○	35	2	1	2	0								5	○	○	1、2、6	D	個別	
4	○	○	○	○	○○ ○○	33	3	2	1	2								8	○	×	3	A	拡大	
5	○	○	○	○	○○ ○○	21	0	3	2	3								8	×	×	1、4	C、D	個別	
6	○	○	○	○	○○ ○○	18	3	0	0	3								6	○	×	1	C、D	個別	
7	○	○	○	○	○○ ○○	10	1	1	2	6								10	×	×	2	B、C、D	個別	
8	○	○	○	○	○○ ○○	7	1	3	0	4								8	×	×	6	C	全体	
9	○	○	○	○	○○ ○○	7	3	0	0	6								9	×	×	1	C	全体	
10	○	○	○	○	○○ ○○	3	3	3	0	2								8	×	×	5	C	全体	
																		0						
<p>判断基準のいずれかの項目に該当する児童生徒全員について作成する。年度途中で該当児童生徒が出れば、その都度、追加する。判断基準のAまたはB、C、Dの3項目中の2項目が該当する児童生徒は個別ケース会又は拡大ケース会の対象とし、計画的に実施する。なお、他の児童生徒についても、別室登校や不登校の要因等を考慮し、必要に応じて個別ケース会の対象とする(例 表の番号「3」は、昨年度及び本年度別室登校であり、不登校の要因として「1」「2」「6」が重複している 等)。本年度、欠席日数が30日以上となった児童生徒は、不登校児童生徒名簿のシートにそのまま移動する。</p>																								
																		0						
																		0						
																		0						